静岡ウェルネスプロジェクトの概要

静岡県のポテンシャル

健康寿命日本一
男女とも全国1位
男性：73.75歳（R4）
女性：76.68歳（R4）

豊富な食材
439品目の
農林畜水産物

多彩な観光資源
温泉利用宿泊施設数
全国1位
2,397施設（R6）

知の拠点の集積
静岡大学・県立大学
静岡SPH、農研機構等

多彩な企業集積
食料品等付加価値額
全国1位
8,831億円（R5）











プロジェクトの取組

計画期間　令和7年度～令和10年度（4年間）

支援領域　食品・ウェルネス関連産業、健康づくり

成果指標
静岡県の健康寿命　＜目標＞　平均寿命を上回る健康寿命の延び
プロジェクト関連製品・サービスの総売上金額　＜目標＞　30億円（R7～R10累計）

目指す姿　県民幸福度日本一（食品・ウェルネス産業の振興、県民の健康寿命の延伸）

施策展開

食品・ウェルネス産業の振興（経済産業部） ✖ **県民の健康寿命の延伸（健康福祉部）**

柱Ⅰ：研究開発
アカデミア、研究機関等の連携によるシーズ探索・活用

- フードテックシーズ探索・可能性調査の推進
- 次世代産業関連プロジェクト間連携の推進
- 健康・医療データ等の活用・検証の推進



柱Ⅱ：事業化・異業種連携
スタートアップ等との連携による製品・サービスの開発

- スタートアップと地域企業の共創の仕組づくり
- 未来型食品の開発支援
- 地域資源を活用した静岡県ならではのウェルネスサービス等の創出



柱Ⅲ：販路開拓・拡大
アップサイクル製品等の出口戦略強化

- 出口を持つ企業を核としたビジネスモデルの構築
- マーケットインの視点を踏まえたマーケティングの推進



柱Ⅳ：人材育成
食品・ウェルネス産業の地域経済を牽引する中核人材の育成

- フードテック、食の社会課題解決等に資する専門人材の育成
- パーソナライズ、エビデンス等に寄与する専門人材の育成



柱Ⅴ：健康づくり
社会健康医学研究の推進や社会実装

- KDB（国保データベース）データを活用した健康長寿研究の推進
- 研究成果の社会実装を踏まえた実証事業の実施

令和8年度のプロジェクトの重点施策

R8予算：1億4,550万円

食品・ウェルネス産業の振興

スタートアップとの共創

7月23日～25日開催

○ 県内外のスタートアップ等を招聘したフードテック・ウェルネスの商談展示会「静岡ウェルネス・フーズEXPO2026」を開催

○食品・健康産業を含む全産業領域のスタートアップと地域企業のマッチングイベントである「TECH BEAT Shizuoka2026」と同時開催

スタートアップ、地域企業のマッチング等による
静岡発のフードテックビジネス等の創出を推進



静岡ウェルネス・フーズEXPO2026



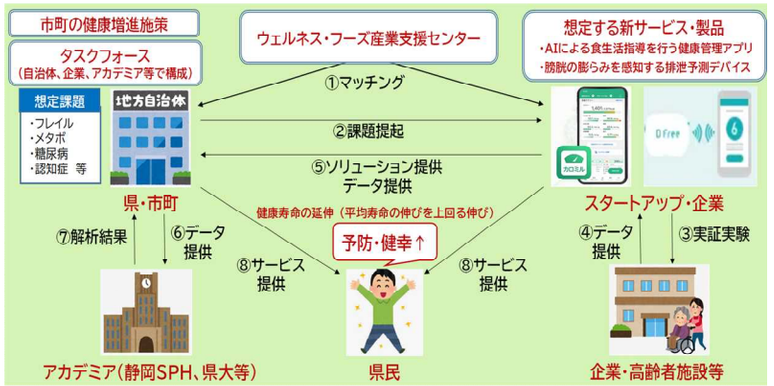
TECH BEAT Shizuoka2026

ウェルネス産業の振興・健康づくり

新たなウェルネスサービスの創出

○ 市町をフィールドとした実証や、大学や研究機関等との連携による実証データの検証等を展開

市町の健康課題解決、健康寿命の延伸に資するサービス等の創出を推進





血流改善アイシングマシン

食品産業の振興

食に関する社会課題への対応

○ マーケットインの視点によるアップサイクル商品の開発・製造・販売の一貫したビジネスモデル構築事業を実施

県内企業への横展開や企業によるアップサイクル
食品開発に向けた機運向上



浜名湖産ウナギの頭を使った
鰻だし塩ラーメン



「大井川じゃばら」を種以外まるごと利用した
「ヨーグルトジェラート」

○ 県工業技術研究所で食のアップサイクル製品の試作・品質評価等を支援している未利用食材活用トライアル拠点を強化

未利用食材を活用したアップサイクルによる
企業収益の改善、環境負荷低減を推進

○ 県内の未利用食材の発生元から活用先までをつなぐ持続可能なローカルサプライチェーン構築実証事業による課題解決

県内における未利用食材を活用したビジネスモデル
を構築し、アップサイクルの取組の普及・拡大